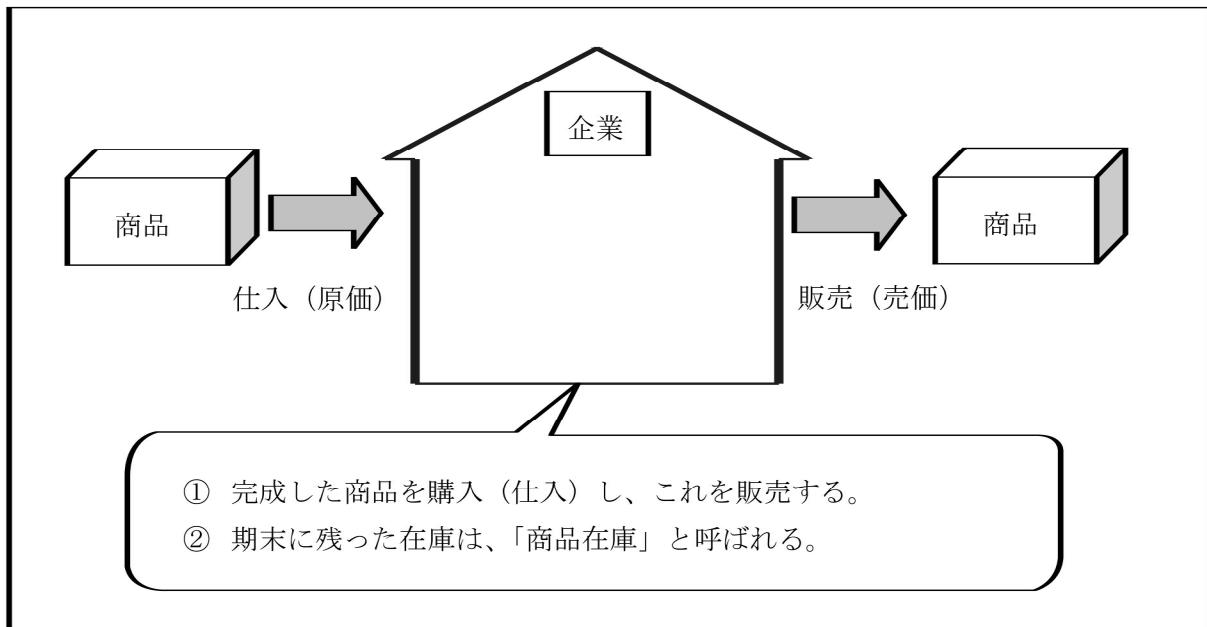


テーマ1

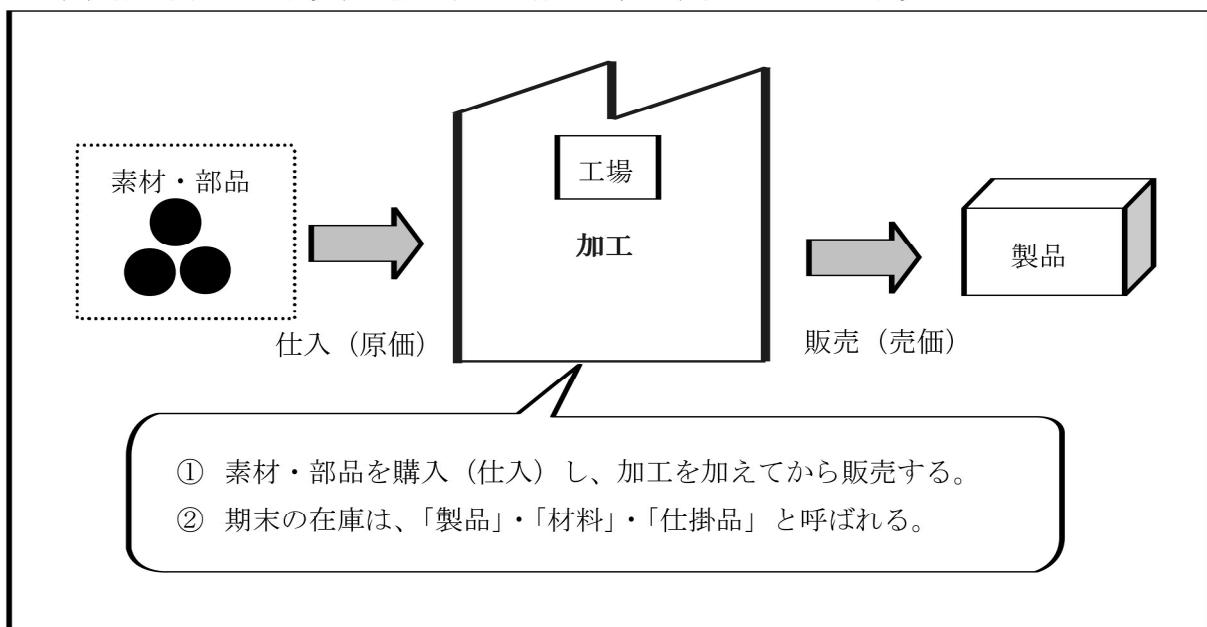
商業簿記と工業簿記

工業簿記とは、製造業（メーカー）で用いられる簿記のことです。

これまで、3級や商業簿記で学習してきた簿記は、商品売買業・サービス業などで用いられる簿記でした。商業を営む企業の特徴は、次のとおりです。



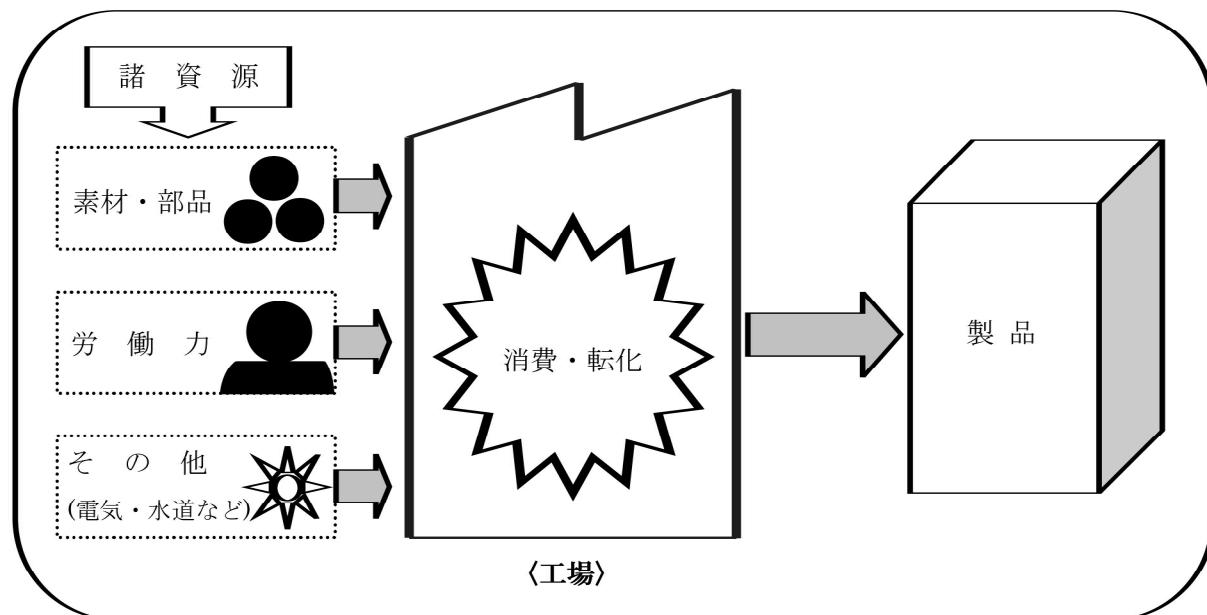
一方、「工業簿記」の対象となる製造業は、工場内で「加工」という作業が行われる点で、商業と異なります。製造業を営む企業の特徴は、次のとおりです。



テーマ2

工業簿記と原価計算

製造業における製品の製造活動は、企業内部の活動です。具体的には、「材料・労働力・その他の資源」を工場内で消費し、これを製品という1つの完成物に転化するプロセスなのです。



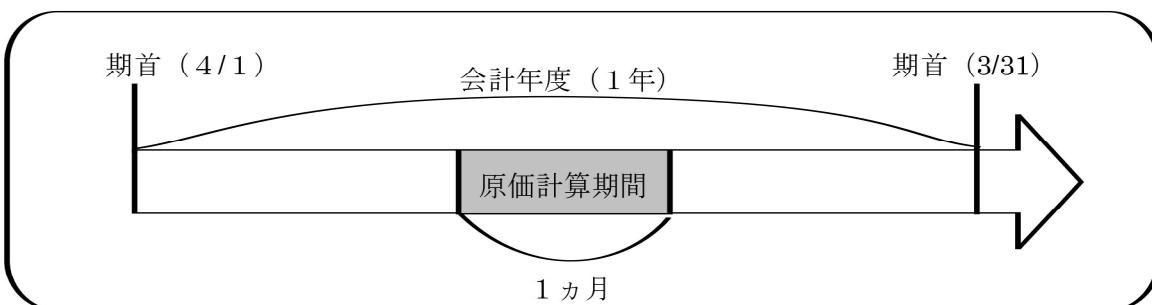
製品製造のために消費した諸資源の額を、**製造原価**といいます。

工場の中で行われている製造活動を正しく記録し、財務諸表を作成するためには、原価の正確な計算が必要となります。

原価を正確に計算する手続のことを**原価計算**といいます。

「原価計算の結果は、工業簿記の手続により記録（＝帳簿に記入）される」のです。

なお、原価計算の手続における期間の単位は「**1ヶ月**」であり、これを**原価計算期間**といいます。



テーマ3

原価の種類

原価とは、経営活動の過程における、財・サービスの消費額です。具体的には、次の3種類の経営活動によるものがあります。

① 製造活動「製造原価」（工場で発生）

- (i) 材料費（素材・部品などの消費額）
- (ii) 労務費（労働力の消費額）
- (iii) 経費（その他の諸資源の消費額）

② 販売活動「販売費」

（例）広告宣伝費、発送費用、倉庫費、掛壳集金費、販売事務費、販売員や営業所長の給料、営業所で発生する諸経費

③ 全般管理活動「一般管理費」

（例）本社企画費、重役室費、役員報酬、本社従業員の給料、本社で発生する諸経費

製造原価・販売費・一般管理費以外の費用を**非原価項目**といいます。具体例としては、支払利息や有価証券売却損などの営業外費用、異常な額の棚卸減耗費や火災損失などの特別損失があります。

- 計算例：(1) 工場で消費した素材費（A 製品）200 万円
(2) 工場の従業員に支払った賃金（A 製品）150 万円
(3) A 製品の広告宣伝費 120 万円
(4) 重役室費 80 万円
(5) 営業所の従業員給料 240 万円
(6) 工場の諸経費（A 製品）300 万円
(7) 営業所の減価償却費 140 万円
(8) 本社における諸経費 320 万円

- ① A 製品の製造原価…650 万円←(1)+(2)+(6)
② 販 売 費 …500 万円←(3)+(5)+(7)
③ 一般管理費 …400 万円←(4)+(8)

テーマ4 原価の分類

原価の分類方法には、次の3つの代表的な方法があります。

(1) 消費した資源を各費目（材料費・労務費・経費など）に集計する場合

⇒原価の発生形態による分類（**形態別分類**）

- ① 材料費…製品を製造するために消費される物品の額。
- ② 労務費…製品を製造するために消費される労働力の額。
- ③ 経 費…材料費・労務費以外の製造原価。

(2) 集計された各費目を特定の製品別に再集計する場面

⇒製品との関連における分類

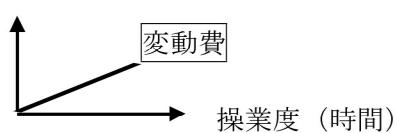
- ① **直接費**…一定単位の製品の製造に関して直接認識できる原価をいう。
たとえば、主な部品や素材といった材料費など。
- ② **間接費**…一定単位の製品の製造に関して直接認識できない原価をいう。
たとえば、工場建物の減価償却費など。

(3) 原価のデータを経営管理に役立てる場面

⇒操業度（生産設備の利用度合い）との関連における分類

- ① **変動費**…操業度の増減に応じて比例的に増減する原価をいう。たとえば、
材料費や出来高払いの賃金など。
- ② **固定費**…操業度の増減にかかわらず変化しない原価をいう。たとえば、
地代家賃や減価償却費など

原価（円）



原価（円）

